

タピネット

札幌市自立支援協議会

東区地域部会

第31号 令和5年4月発行

令和4年度東区地域部会の活動報告をいたします！

東区地域部会は平成21年に設置され、東区障がい事業所ガイドブックの発行、介護従事者研修会の実施、地域課題の発掘などの活動を行ってきました。

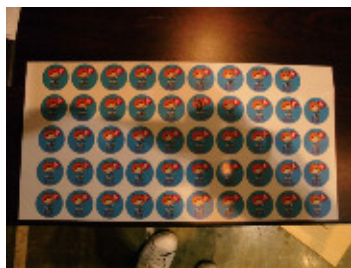
令和4年度下半期については、『第12回ウェルトーク』を開催し、さらに新型コロナウイルスの流行により開催を中止していた『ふくしまルシェ』と『全体会』を3年ぶりに開催しました。今回は、各イベントの内容をご報告します。

ふくしまルシェ

◆実施内容

令和4年11月12日（土）午後1時から、東区民センター大ホールにて「東区ふくしまルシェ」を3年ぶりに開催しました。「さいかいできる輪（わ）」をテーマに、講演会、ステージ発表、福祉バザーなどで楽しみながら地域の方との交流を深め、会場は大盛況でした。

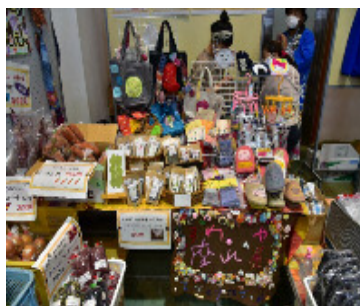
東区内の小規模作業所などによる福祉バザーでは、手作りの木工品や日用品、アクセサリなどが販売されました。また、ステージではジャズシンガー黒岩静枝（くろいわ・しずえ）さんのミニライブ、障がいのある方や地域サークルによる合唱、フラダンスなどのステージ発表が行われました。その他、縁日広場や相談支援事業所による相談コーナー、障害者福祉サービス事業所の紹介コーナーも設けられ、参加者や来場者は3年ぶりの開催と互いの再会を喜び合いました。



新型コロナウイルス感染対策として、マスクに貼るシールをご用意しました



ステージ発表の様子



バザーの様子



第 12 回ウェルトーク

◆実施内容

令和4年12月2日（金）午後18時から、「医ケア児及びその家族に対する支援に関する法律について」をテーマにオンライン会議（ZOOM）にて開催し、障がい児の親や障がい福祉サービス事業所職員、教育関係者など、21人が参加しました。

講演では、札幌市医療的ケア児支援検討会副会長の楡の会・加藤法子総合施設長に対して、実際の現場で感じていることや医ケア児検討委員会にて検討していることなどについて、インタビューを行いました。

ブレイクアウトルームを利用した交流会では、4つのグループに分かれて講演の感想について意見交換を行い、交流を深めるとともに、医ケア児への支援について理解を深めました。

札幌市自立支援協議会東区地域部会全体会



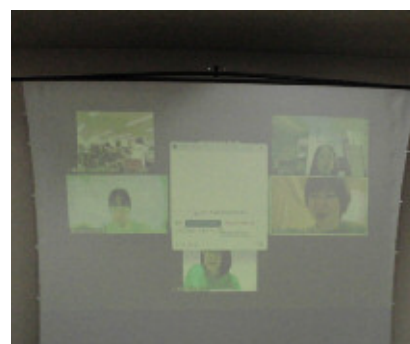
◆実施内容

令和5年3月7日（火）午後18時半から、「障がいがあっても住みやすい東区をつくろう！～重度障がい者の地域生活について知ろう！～」をテーマに対面及びオンライン形式のハイブリッドにて開催し、障がい当事者やご家族、障がい福祉サービス事業所職員、教育関係者など、50人が参加しました。

重度障がい者に関するアンケート結果の報告に加え、重度障がいをお持ちの方の地域生活のご紹介を映像で行いました。グループ交流では講演会の感想や「重度障がいをお持ちの方がどのようにしたら住みよい東区になるのか」について意見交換を行い、重度障がい者についても理解を深めました。



重度障がいをお持ちの方の地域生活の様子を映像で紹介しました



オンラインでの交流会の様子



全体会のグループ交流会で出た声の一部をご紹介します！

- 重度障がいをお持ちの方の支援には、専門性が必要になる。受け入れは、誰でも出来るわけではないので難しさがある。色々な事業所との関わり合いがあるとよい。
- ヘルパー職の給料を上げ、社会的な評価を上げていく必要がある。ヘルパーが働く際の権利保障が必要。セクハラやケガなど「法律」で守っていくことも必要ではないか。
- 福祉に携わっている人以外の人たちにどのように参画してもらうか、地域住民と一緒に研修などを開催して理解を深めていくことも必要ではないかと思った。
- 地域の方に寄り添う応援団や仕組みを作ることが必要。
- 当事者が研修に入り、本人の思いを伝えられる場があるとよい。
- 重度障がい者に関わっている家族や支援者がもっと情報を発信したり、困っている家族が語り合える場、情報収集できる場、心が落ち着く場を作っていく必要があると思う。
- 札幌は広すぎて、社会資源や相談窓口の種類が多すぎて、正直どこに相談したらよいかわからなくなる。結果、相談できずに苦勞している方がいる。よろず屋的な機関があった方がよいと思う。



グループ交流会の様子



札幌市自立支援協議会東区地域部会では、これからもさまざまな取り組みを行ってまいりますので、ぜひ、ご参加ください。